

行政措置予防接種一覧表

No.	対象疾病 (ワクチン)	対象者	実施方法				備考	
			回数	間隔	接種量	方法		
1	季節性インフルエンザ	生後6か月以上でB類の対象者を除く 全年齢	2回 (13歳未満) 1回または2回 (13歳以上)	(13歳未満) 2～4週間  (13歳以上) 1～4週  (免疫効果を考慮すると4 週間が望ましい)	6か月以上 3歳未満  3歳以上  1歳以上 3歳未満  3歳以上	各0.25ml  各0.5ml  各0.25ml  各0.5ml	皮下      第一三共のワクチン	
		2歳以上19歳未満の者	1回		0.2ml (各鼻腔内に0.1mlを1噴霧)	鼻腔内に 噴霧	第一三共のワクチン (点鼻液)	
2	経皮接種用乾燥BCG	予防接種法で定める対象年齢外で医師が必要と認める者	1回		規定のスポンジで滴下	経皮		
3	沈降精製百日せきジフテリア 破傷風不活化ポリオヘモフィル sb型混合	予防接種法で定める対象年齢外で あって、15歳未満で医師が必要と認め る者	4回			皮下または 筋肉内		
4	沈降精製百日せきジフテリア 破傷風不活化ポリオ混合	予防接種法で定める対象年齢外で あって、15歳未満で医師が必要と認め る者	4回		各0.5ml	皮下	但し、沈降ジフテリア破傷風混合 トキソイドを使用した第2期の接 種を行う場合は0.1mlとする。	
5	沈降精製百日せきジフテリア 破傷風混合	予防接種法で定める対象年齢外で 医師が必要と認める者	4回					
6	沈降ジフテリア破傷風混合トキ ソイド	予防接種法で定める対象年齢外で 医師が必要と認める者	3回					
7	不活化ポリオ	予防接種法で定める対象年齢外で 医師が必要と認める者	4回					
8	乾燥細胞培養日本脳 炎	1期	予防接種法で定める対象年齢外で 医師が必要と認める者	3回		3歳未満 3歳以上	各0.25ml 各0.5ml	皮下
		2期	予防接種法で定める対象年齢外で 医師が必要と認める者	1回		0.5ml		
9	乾燥弱毒生麻しん風しん混合 (MR)	予防接種法で定める対象年齢外で 医師が必要と認める者	1回			0.5ml	皮下	
	乾燥弱毒生麻しん(M)							
	乾燥弱毒生風しん(R)							
10	小児用肺炎球菌	13価	2か月齢以上、6歳未満の者	初回免疫3回 27日以上  追加免疫1回		各0.5ml	皮下	
		15価	予防接種法で定める対象年齢外で あって、18歳未満で医師が必要と認め る者	初回免疫3回 27日以上  追加免疫1回		各0.5ml	皮下または 筋肉内	
		20価	予防接種法で定める対象年齢外で あって、6歳未満で医師が必要と認め る者	初回免疫3回 27日以上  追加免疫1回		各0.5ml	皮下または 筋肉内	
11	肺炎球菌(23価)	B類の対象者を除く、2歳以上の者	1回			0.5ml	皮下または 筋肉内	
12	ヒトパピローマウイルス s感染症 (HPVワクチン)	2価	予防接種法で定める対象年齢外で あって、満10歳以上の女子で医師が 必要と認める者	3回	初回目を0月として以降 1か月、6か月後	各0.5ml	筋肉内	
		4価	予防接種法で定める対象年齢外で あって、満9歳以上で医師が必要と認 める者	3回	初回目を0月として以降 2か月、6か月後			
		9価	予防接種法で定める対象年齢外で あって、満9歳以上の女子で医師が必 要と認める者	3回 (2回)	初回目を0月として以降 2か月、6か月後(初回 接種から6～12か月間 隔をあけて接種)			
13	水痘	予防接種法で定める対象年齢外で あって、1歳以上で医師が必要と認め る者	2回	3月以上		各0.5ml	皮下	
14	带状疱疹(乾燥弱毒生水痘ワ クチン)	50歳以上の者	1回			0.5ml	皮下	
15	带状疱疹(乾燥組換え带状 疹ワクチン)	50歳以上の者	2回	2月	各0.5ml	各0.5ml	筋肉内	
16		带状疱疹に罹患するリスクが高いと考 えられる18歳以上の者		1～2月				
17	Hib感染症	予防接種法で定める対象年齢外で あって、10歳未満で医師が必要と認め る者	1回			0.5ml	皮下	

No.	対象疾病 (ワクチン)	対象者		実施方法				備考
				回数	間隔	接種量	方法	
18	B型肝炎	(1) HBs抗原陽性の母親から生まれたHBs抗原陰性の乳児		3回	生後0、1、6か月	各0.25ml	皮下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1)では出生直後(生後12時間以内を目安)にHB免疫グロブリンを通常0.5～1mL筋注。</li> <li>・必要に応じて追加接種を行うことが望ましい。</li> <li>・(3)ではHBe抗原陽性の血液汚染事故の場合はHB免疫グロブリンを併用する。</li> </ul>
		(2) ハイリスク者(医療従事者、腎透析を受けている者、海外長期滞在者など)・一般の任意接種者		3回	4週間間隔で2回、更に1回目から20～24週を経過した後に1回	各0.5ml (10歳未満0.25ml)	皮下又は筋肉内 (10歳未満は皮下)	
		(3) 汚染事故時(事故後のB型肝炎発症予防)		3回	事故発生後7日以内その後1か月後及び3～6か月後			
19	おたふくかぜ	1歳以上 (生後24～60月の間に接種することが望ましい)		1回		0.5ml	皮下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副反応は少ないが、接種2～3週間後に一過性の耳下腺腫脹や発熱が見られることもある。また、まれに髄膜炎の報告もある。</li> </ul>
20	A型肝炎	1歳以上の小児が推奨される		初回2回	2～4週	各0.5ml	筋肉内または皮下	
				追加1回	初回接種後24週経過後			
21	狂犬病	全年齢	(国内製)	曝露前3回	4週間間隔で2回 6～12か月後1回	各1.0ml	皮下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接種要否は世界保健機構(WHO)の推奨も参考に検討する。</li> <li>・咬傷等の曝露を受けた場合には、以前に曝露前免疫を完了した者であっても、必ず曝露後免疫を行う。</li> <li>※国内製と海外製は、曝露後の接種回数が違うので注意する。</li> </ul>
				曝露後6回	1回目を0日として以降 3、7、14、30、90日			
			(海外製)	曝露前3回	1回目を0日として、 7、21又は0、7、28日	各1.0ml	筋肉内	
				曝露後4～6回	1回目を0日として 4回接種:0(接種部位を変えて、2箇所)に1回ずつ、計2回)、7、21日 5回接種:0、3、7、14、28日 6回接種:0、3、7、14、30、90日			
22	破傷風	全年齢		初回免疫2回	3～8週	各0.5ml	皮下または筋肉内	
				追加免疫1回	初回免疫後6か月以上の間隔			
23	肺炎球菌	13価	高齢者または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者	1回		0.5ml	筋肉内	
		15価	高齢者または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上の者	1回		0.5ml	筋肉内	
24	髄膜炎菌	2歳以上56歳未満(備考参照)		1回		0.5ml	筋肉内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2歳未満の小児、56歳以上の者への有効性、安全性は確立していない。</li> </ul>
25	百日せき3種混合(DPT)	5歳以上で初回免疫が完了している者		1回または2回	DPT-IPV 4回目接種後6か月以上あける	0.5ml	皮下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童期以降の百日せき予防目的(日本小児科学会推奨)</li> <li>・就学前時の百日せき抗体価が低下しているため、就学前の追加接種を推奨(5歳～7歳半)</li> <li>・2種混合(DT)の代わりに3種混合ワクチンを接種してもよい(11歳～12歳)</li> </ul>
26	RSウイルス	60歳以上の者		1回		0.5ml	筋肉内	
		妊娠24～36週の妊婦						
27	新型コロナウイルス感染症	生後6か月以上でB類の対象者を除く全年齢		1回		製剤により異なる	筋肉内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ワクチンの添付文書に記載されている用法・用量に基づいて行う。</li> </ul>

注) 予防接種の実施については、定期予防接種の実施要領に準拠して行う。

予防接種の実施については、予防接種リサーチセンター発行の「予防接種ガイドライン」最新版、医薬品医療機器等法に定められた添付文書の用法用量による。